

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
期末配当基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同送付先・連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村証券株式会社 全国本支店
上場証券取引所	東京証券取引所第1部

■株式に関するお手続き用紙のご請求について

株式関係のお手続き用紙のご請求は、三菱UFJ信託銀行にてお電話およびインターネットでも24時間受け付けしておりますのでご利用ください。

電話 0120-244-479 (本店証券代行部)
0120-684-479 (大阪証券代行部)
ウェブサイト <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

なお、証券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にお問い合わせください。

株主様向けアンケート 株主の皆様のお声を聞かせください

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、下記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>

- 携帯電話からもアクセスできます／QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。
- 空メールによりURL自動返信/kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください(タイトル、本文は無記入)。アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。
- アンケート実施期間は、本中間報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間(2007年2月10日まで)です。
- ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます。

※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。
●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」 TEL:03-5777-3900 MAIL:info@e-kabunushi.com

HEIWA INTERIM BUSINESS REPORT 2007



第39期 中間報告書

平成18年4月1日～平成18年9月30日



<http://www.heiwanet.co.jp/>

永遠の原点

最新のエレクトロニクス技術を駆使して今やレジャー産業の雄に成長したパチンコ産業。平和は常にその先頭を走ってきました。戦後の暗闇の中で、人間にとって最も尊く大切なことは「平和」であると痛感した瞬間から、私たちの道は始まりました。パチンコ産業は「平和」の象徴でありたい、その熱い想いが社名になりました。時代が変わり、時が移っても、その創業の精神は脈々と受け継がれ一人ひとりの心に息づいています。平和こそ、私たちの原点。

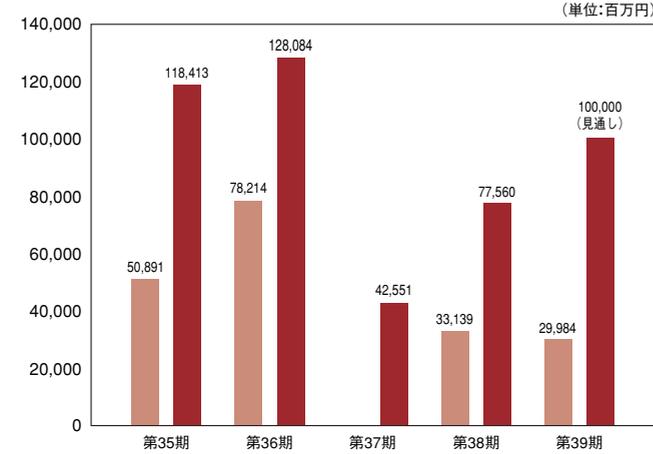


CONTENTS

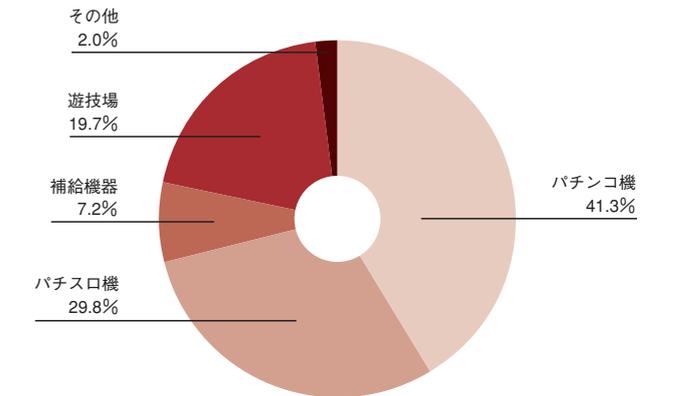
財務ハイライト(連結)	02
トップインタビュー	03
特集 HEIWA SS	05
セグメント別の概況と通期の見通し	09
連結財務諸表	11
単独財務諸表	13
会社概要・株式の状況	14

■ 中間期 ■ 通期

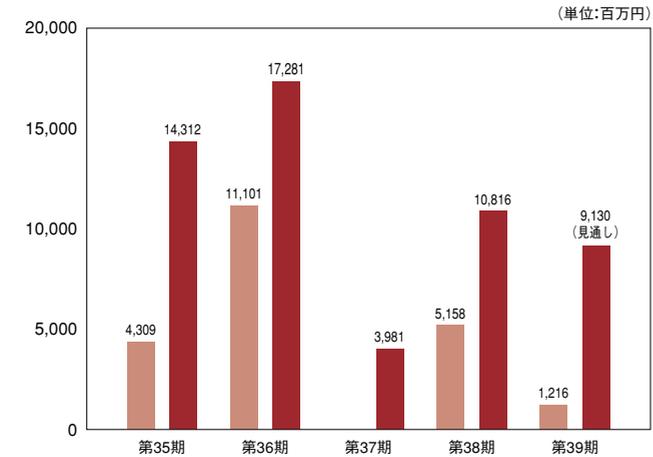
売上高



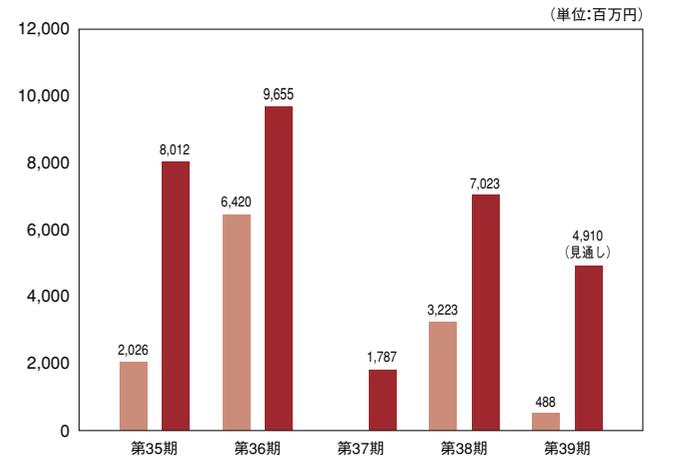
セグメント別売上高構成比



経常利益



当期純利益



※第37期は、決算期日を12月31日から3月31日に変更したため、2005年1月1日から2005年3月31日までの3ヵ月間となります。

「新たな戦略製品の投入を通じ、業績の拡大を目指してまいります」

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの第39期中間期(2006年4～9月)の業績や今後の見通しなどについて、この場をお借りしてご説明させていただきます。

Q 事業環境について

パチンコ・パチスロ業界は、ユーザーの減少と一部のヘビーユーザーに売上を多くを依存する市場環境が問題となっており、「身近で手軽な大衆娯楽」へと舵をきるための転換期を迎えています。

具体的には、2004年7月の遊技機規則改正により、ヘビーユーザーから支持を得ていたパチスロの旧規則機が、2007年6月までに、より射幸性の低い新規則機へすべて入替られます。すでに新規則機への入替が進んだパチンコにおいても、より射幸性が低く、手軽に安く遊べる「遊パチ」の普及をパチンコメーカー・ホール双方で進めています。

こうした動きは、短期的には、パチンコホールの売上を減少させますが、中長期的には、パチンコ・パチスロユーザーの増加につながり、業界の健全化のみならず、業界の発展にも寄与するものと考えます。

しかしながら、現時点では、パチンコホールが短期的な利益を優先し、より売上のあがるパチスロの旧規則機を温存している状況にあり、新規則機への入替は、ほとんど進んでおりません。その反動で、入替の期限を見据え、来年初頭から6月にかけてパチスロ機の新規則機の需要が大幅に伸びると推測されます。パチンコホールの予算が限られていることを考えると、同時期におけるパチンコ機の需要は落ち込む可能性があります。



代表取締役社長

石塚保彦



「SS」第1弾
「燃える闘魂アントニオ猪木」

©IEA
©New Japan Pro-Wrestling Co.,Ltd.

Q 当中間期における業績について

当中間期の当社グループの業績は、売上高299億円、営業損失13億円、経常利益12億円と、ご心配をおかけする結果となりました。株主の皆様にお詫び申し上げます。

売上高減少、営業損失の原因は、グループの主力事業であるパチンコ機・パチスロ機の販売不振です。パチンコ機事業では、市場環境を鑑み、主力製品「SS」の投入を下期に集中させたこと、また当社グループ製品のパチンコホールにおける評価が厳しいことから、販売が落ち込む結果となりました。また、パチスロ機事業においては、新規則機の需要の立ち上がりが遅れたことが主な原因です。

一方で、経常利益は、金融資産の評価益により、黒字となりました。

Q 主力製品「SS」とはどんな製品なのでしょうか？

11月発売「燃える闘魂アントニオ猪木」からはじまる、当社パチンコ機の新ブランドです(次ページ以降参照)。

現在、パチンコ機市場では、液晶サイズが重要なファクターの1つとなっています。現在の主流は10.4インチですが、「SS」では20インチと従来の2倍のサイズの液晶を搭載します。また、これまでゲージ盤に搭載されていた液晶を本体に搭載することで、ゲージ盤入替を他社製品と比べ低コストで行うことが可能となります。

ハイクオリティでローコストな製品を市場に投入することで、当社グループの市場シェア向上を図り、業績の拡大に努めてまいります。

Q 下期に向けての課題

下期の課題は大きく2つあります。1つはパチンコ機事業における戦略製品である「SS」の市場シェアを拡大することです。「SS」はパチンコホールにおける当社グループ製品への厳しい評価を変えることのできる製品であると考えています。

もう1つは、パチスロ機事業において、低迷している新規則機に対する需要が増加するタイミングを見極め、タイムリーな製品供給に努めることです。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします

中間期の結果は、株主の皆様にご心配をおかけする結果となりましたが、下期は、パチンコ機事業においては戦略製品である「SS」の投入、パチスロ機事業においては新規則機のタイムリーな供給により、業績の向上に努めてまいります。

また、配当は、安定配当の基本方針のもと、中長期的な業績の見通し、資金状況や自己株式の取得状況を総合的に検討し、年間30円と、前期比2.5円の増配を予定しています。

最後に、私どもは、ユーザーの動向変化を分析・予測した商品戦略、パチンコホールの経営環境に見合った価格戦略など、具体的なテーマに基づいた整備を早急に行い、株主の皆様のご負託にお応えしてまいり所存です。今後も引き続き、変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。



今、明らかになるHEIWA SSのすべて

お客様に楽しんでいただくために――。私たちは、さらなるエンターテインメント性を追求し、ついにSuper Screen & Super Sound=SSという一台のマシンを完成させました。次世代を担うことができる品質と性能、そしてエンターテインメント性を備える「HEIWA SS」についてご紹介します。

「『SS』は、無限の可能性を秘めたパチンコ機です」



SSプロジェクトリーダー
大澤 正樹

「SS」の特徴を簡単に申し上げますと「高コスト体質からの脱却」、「ハイクオリティの画像と音質」、「様々な可能性」の3つを挙げることができます。

パチンコ機の価格は、液晶画面や著作権料の高騰もあり、年々値上がりしています。従来のパチンコ機の構造では、この液晶画面がパチンコのゲーム性をつかさどるゲーゼ盤と一体となっていたため、新機種の入替の都度、一緒に交換しなければなりません。

しかし、「SS」では、液晶画面を本体側に搭載することでその継続使用が可能となり、その分パチンコホールの新機種入替を円滑かつ、低コストで行えるようになりました。

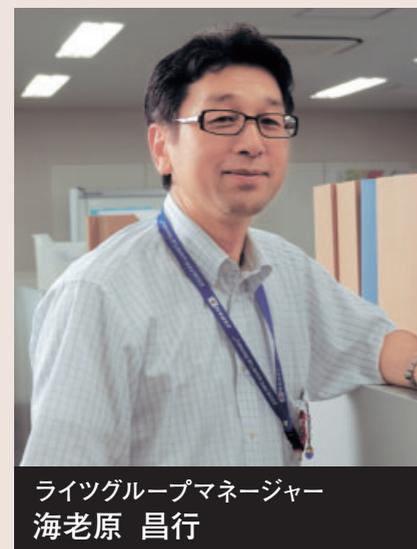
そして「SS」がSuper Screen, Super Soundの略称であるように「ハイクオリティの画像と音質」を実現しています。これまでのパチンコ機の液晶画面は、10.4インチが主流で、これより小さいサイズですと敬遠されがち傾向にありました。今回、「SS」では、20インチ全面液晶を採用しています。パチンコという枠で考えれば20インチの液晶サイズは、行き着くところまで行き着いた最終形であるといえます。

「音」にもこだわりました。高品質の画像は高品質の音を伴ってはじめて意味があると考えた結果です。そのため、スピーカーシステムの構造を最初に決めてしまい、他の機構はそれに合わせるという、音質最優先での設計となりました。

最後に、「SS」は単なる全面液晶パチンコ機ではありません。盤面を従来のベニヤ板から透明のアクリル盤にしたことで、これまで考えられなかったような大型の飾りや仕掛けが可能になります。企画者・開発者に大きな自由度を確保しました。今後、より幅広い方々に支持される「あっ」と驚くような新発想がでてくる可能性が無限にあると思います。

「SS」の今後にご期待ください。 (談)

「今までにないコンテンツの取得もあります」



ライツグループマネージャー
海老原 昌行

現在、パチンコ・パチスロ機を開発する上で、重要となるのが、コンテンツと呼ばれるアニメーションキャラクターや有名人などの著作権の取得です。近年、他のメーカーさんと同様に当社でも様々な大型著作権を使った機械をリリースしています。

「SS」の誕生により、これらのコンテンツが持っている魅力を最大限に発揮することが可能になります。

「SS」の最大の特徴は、ハイビジョン対応も可能とさせる20インチ全面液晶と重低音を効かせたスーパーサウンドシステムです。

DVD以上のハイクオリティな映像表現が可能となりますので、コンテンツの提供を検討してもらえる著作権会社さんも益々増えてくるでしょう。また、3カ所に設置されたスピーカーから飛び出す迫力の重低音は実力派アーティストにも納得してもらえるはず。実際、今まで不可能と思われていた分野やパチンコには適さないとされてきたコンテンツも既に確保しています。

一方で「SS」だからこそ大変なこともあります。DVDレベルのデータを取得しても「それ以上のクオリティのデータが欲しい。」と、社内から声があがります。ですからコンテンツ収集もひと苦勞です。

まさに「うれしい悲鳴」です。

将来的には、広告メディアになっても不思議ではありません。オリジナルキャラクターを映像プロダクションや広告代理店などと組んで一から製作していくのも良いですね。

とにかく現在のパチンコファンのみならず、コンピュータゲームや、ハイビジョンなどのクオリティの高いものに囲まれて育っている若い世代の方々にも十分にご満足いただける自信があります。

今までに無いコンテンツを実現して、新しいファン層も取り込んでいきたいですね。 (談)



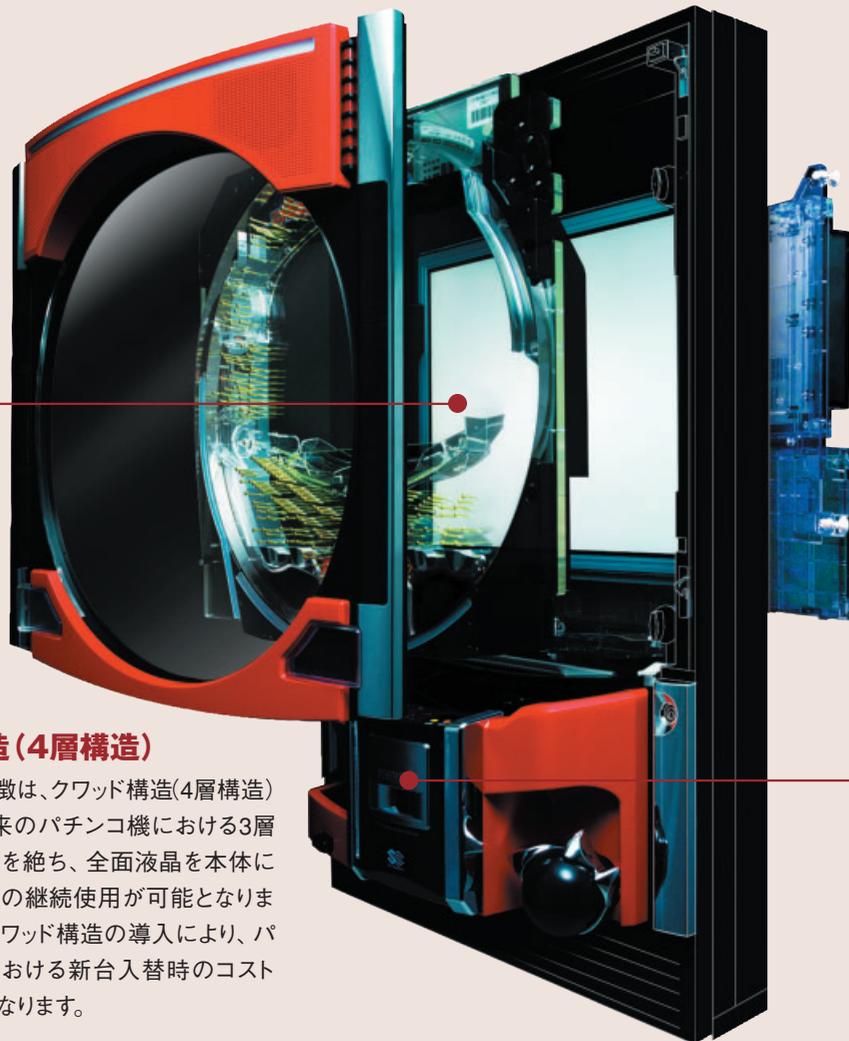
HEIWAが描く理想。これがSSだ

HEIWAが描く理想—。それは、パチンコに関わるすべての方にお喜びいただけるパチンコ機を提供することです。「HEIWA SS」では、高品質な画面とサウンドシステムを搭載した他、パチンコホールにおける設置のコストダウンを可能にする画期的な「クワッド構造」を採用しました。その詳細をご説明しましょう。



Super Screen

SSは、20インチという大画面。パチンコ機の表示部分のすべてが画面という大きさです。そのため業界トップクラスの解像度を選択し、画面の大型化による画像の不鮮明さを克服。映像を細部までクリアに映し出し、色彩豊かな表現を可能とするとともに、ハイビジョンクラスの迫力ある臨場感をお届けします。



クワッド構造(4層構造)

SSの最大の特徴は、クワッド構造(4層構造)にあります。従来のパチンコ機における3層構造という構図を絶ち、全面液晶を本体に残すことで液晶の継続使用が可能となりました。新発想クワッド構造の導入により、パチンコホールにおける新台入替時のコストダウンが可能となります。

Super Sound

SSは、重低音を強調したスーパーサウンドシステムを採用しています。スピーカーは3カ所。上部左右に2個のフルレンジスピーカーを設置した他、操作部中央に重低音専用のサブウーファーユニットを搭載。トータルで迫力の2.1チャンネルサウンドシステムを完成させました。



パチンコ機事業

■市場の概況

2005年末のパチンコ機設置台数は、パチスロ人気の影響もあり、296万台（前年比4%減）となり、はじめて300万台を下回りました。

その一方で、今年4～9月におけるパチンコ機の販売台数は、パチンコホールが新台入替によって集客をはかる営業スタイルを強化したこともあり、前年同期を上回る販売台数を記録するなど、堅調に推移しました。

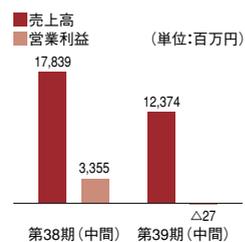
■当社の状況

当社は、「探偵物語」「マハラジャ」など6シリーズを発売し、営業努力を重ねてまいりました。しかしながら、販売台数は55千台（前年同期比35%減）となり、予算（65千台）を下回る結果となりました。これは、当社製品に対するパチンコホールの評価が厳しかったことおよび戦略製品「SS」の投入時期を下期としたことが主な原因です。

■通期の見通し

パチンコホールを取り巻く状況は依然厳しいものがあります。しかし、パチンコ機の需要は、パチンコホール間の競争激化の影響もあり、堅調に推移するものと予想されます。

当社は、下期においては、「燃える闘魂アントニオ猪木」など新ブランド「SS」を中心に6シリーズを投入し、通期の販売台数は240千台を予定しています。



パチスロ機事業

■市場の概況

2005年末のパチスロ機設置台数は、依然として旧規則機の人気が堅調なため、前年比3%増の193万台となりました。

パチスロ機市場は、規則改正により大きな転換期にあります。パチンコホールは、ヘビーユーザーから支持を集めた射幸性の高い旧規則機について、来年6月までに射幸性の低い新規則機への全面的な入替を義務付けられています。

現在、パチンコホールは、依然人気が高い旧規則機を設置し続けています。一方で規則改正に伴う一部旧規則機の撤去により、今後1年程度設置可能な比較的新しい旧規則機への入替が行われています。その結果、今年4～9月におけるパチスロ機の販売台数は、旧規則機を中心に大幅に増加したものと推測されます。

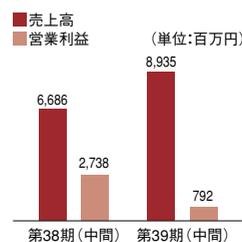
■当社の状況

当社は、新規則機である「ゴルゴ13」を発売する一方、旧規則機の「麻雀物語」を再販するなど、営業努力を重ねてまいりました。しかしながら、販売台数は27千台（前年同期比38%増）となり、予算を下回る結果となりました。これは、市場における新規則機の需要の立ち上がりが遅れたことが主な原因です。

■通期の見通し

パチスロ機については、旧規則機への入替が一巡し、今後は、新規則機の需要が立ち上がると推測されます。

当社は、下期において、新規則機を4機種投入し、通期の販売台数は82千台を予定しています。



補給機器事業

パチンコ機・パチスロ機を設置するための各種設備である周辺機器を(株)平和サテライトが取り扱っています。

遊技場事業

子会社の(株)新効が群馬県高崎市にてパチンコホールを3店舗運営しています。

その他

再保険、投資事業、携帯電話向け情報サービスなど、主にグループ会社によるものです。

▶通期業績見通しの変更について

当社は、市場環境や当社製品のリリーススケジュールの変更により、期初の業績予想を変更しました。

変更は、大きく3点あります。1点目は、パチンコ機事業において、2007年3月に発売予定の1シリーズのリリースを、4月以降としました。2点目として、パチスロ機事業において、新規則機の需要が第4四半期に伸びると判断し、投入機種数を増加させました。3点目は、円安による金融資産の評価益の計上に伴う上期における営業外収益の増加です。

■売上高

パチンコ機事業においては、期初業績予想のレンジの下限となる一方、パチスロ機事業において、期初予想を上回る見通しとなりました。その結果、全体としては、期初業績予想のレンジの下限・上限内の見通しとなりました。

■営業利益

研究開発費及び広告宣伝費をはじめとする販管費の増加により、営業利益は期初業績予想を下回る見通しとなりました。

■経常利益・当期純利益

金融資産の評価益計上により、経常利益・当期純利益とも期初業績予想を上回る見通しとなりました。

▶通期(2007年3月期)の見通し(連結)

(単位:百万円)

	通期予想	前 期
売上高	100,000	77,560
パチンコ機事業	55,500	51,250
パチスロ機事業	27,900	9,267
補給機器事業	4,500	3,991
遊技場事業	11,000	12,468
その他	1,100	583
営業利益	6,320	9,501
経常利益	9,130	10,816
当期純利益	4,910	7,023

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	第39期中間 (2006年9月30日現在)	第38期中間 (2005年9月30日現在)
(資産の部)			
流動資産		94,974	97,331
固定資産		128,991	119,810
有形固定資産		24,900	25,003
無形固定資産		2,297	2,204
投資その他の資産		101,793	92,603
資産合計		223,966	217,142
(負債の部)			
流動負債		19,278	14,181
固定負債		1,048	1,185
負債合計		20,327	15,367
(資本の部)			
資本金		—	16,755
資本剰余金		—	16,675
利益剰余金		—	171,416
其他有価証券評価差額金		—	△419
為替換算調整勘定		—	△442
自己株式		—	△2,210
資本合計		—	201,775
負債及び資本合計		—	217,142
(純資産の部)			
株主資本		203,336	—
資本金		16,755	—
資本剰余金		16,675	—
利益剰余金		172,116	—
自己株式		△2,210	—
評価・換算差額等		303	—
純資産合計		203,639	—
負債純資産合計		223,966	—

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	第39期中間 (2006年4月1日から 2006年9月30日まで)	第38期中間 (2005年4月1日から 2005年9月30日まで)
売上高		29,984	33,139
売上原価		21,933	20,499
売上総利益		8,050	12,640
販売費及び一般管理費		9,417	8,902
営業利益		△1,366	3,738
営業外収益		3,600	2,661
営業外費用		1,016	1,241
経常利益		1,216	5,158
特別利益		187	585
特別損失		288	358
税金等調整前中間純利益		1,114	5,385
法人税、住民税及び事業税		785	1,609
法人税等調整額		△159	552
中間純利益		488	3,223

連結貸借対照表

2006年5月1日施行の会社法により、「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。これは、貸借対照表上、資産性を持つものを「資産の部」、負債性を持つものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債との差額として「純資産の部」に記載するものです。これにより、会社の支払い能力などの財政状態を、より適切に表示することが可能となります。単独貸借対照表も同様です。

中間連結株主資本等変動計算書

第39期中間(2006年4月1日から2006年9月30日まで)

(単位：百万円)

科目	株主資本					評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	其他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算差額 等合計	
前期末残高	16,755	16,675	175,216	△2,210	206,436	2	△86	△84	206,352
当中間期中の変動額									
利益処分による剰余金の配当			△1,717		△1,717				△1,717
利益処分による役員賞与			△154		△154				△154
剰余金の配当			△1,717		△1,717				△1,717
中間純利益			488		488				488
株主資本以外の項目の当中間期中の変動額(純額)						296	91	387	387
当中間期中の変動額合計	—	—	△3,100	—	△3,100	296	91	387	△2,713
中間期末残高	16,755	16,675	172,116	△2,210	203,336	299	4	303	203,639

連結株主資本等変動計算書

2006年5月1日施行の会社法により、「連結株主資本等変動計算書」が新設されました。これは、貸借対照表の純資産の部の中で、主として株主の皆様へ帰属する株主資本について、その1会計期間における変動事由と変動額を、連結ベースでご報告するために作成する計算書類です。単独の「株主資本等変動計算書」も同様です。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	期別	第39期中間 (2006年4月1日から 2006年9月30日まで)	第38期中間 (2005年4月1日から 2005年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		△92	647
投資活動によるキャッシュ・フロー		7,050	6,417
財務活動によるキャッシュ・フロー		△1,718	△716
現金及び現金同等物に係る換算差額		△249	△228
現金及び現金同等物の増減額		4,990	6,119
現金及び現金同等物の期首残高		50,054	57,335
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額		—	△693
現金及び現金同等物の中間期末残高		55,044	62,762

中間貸借対照表 (単位：百万円)

科目	期別	第39期中間 (2006年9月30日現在)	第38期中間 (2005年9月30日現在)
(資産の部)			
流動資産		77,738	82,476
固定資産		131,074	119,713
有形固定資産		21,877	21,775
無形固定資産		114	42
投資その他の資産		109,083	97,894
資産合計		208,813	202,189
(負債の部)			
流動負債		16,372	11,878
固定負債		827	939
負債合計		17,199	12,818
(資本の部)			
資本金		—	16,755
資本剰余金		—	16,675
利益剰余金		—	158,536
その他有価証券評価差額金		—	△449
自己株式		—	△2,145
資本合計		—	189,371
負債資本合計		—	202,189
(純資産の部)			
株主資本		191,344	—
資本金		16,755	—
資本剰余金		16,675	—
利益剰余金		160,059	—
自己株式		△2,145	—
評価・換算差額等		269	—
純資産合計		191,613	—
負債純資産合計		208,813	—

中間損益計算書 (単位：百万円)

科目	期別	第39期中間 (2006年4月1日から 2006年9月30日まで)	第38期中間 (2005年4月1日から 2005年9月30日まで)
売上高		21,928	24,707
売上原価		14,877	13,371
売上総利益		7,051	11,335
販売費及び一般管理費		8,510	7,964
営業利益		△1,458	3,370
営業外収益		3,597	2,582
営業外費用		611	984
経常利益		1,527	4,969
特別利益		176	564
特別損失		264	358
税引前中間純利益		1,439	5,175
法人税、住民税及び事業税		749	1,546
法人税等調整額		△346	518
中間純利益		1,036	3,111
前期繰越利益		—	145,875
中間配当額		—	1,431
中間未処分利益		—	147,555

単独損益計算書

期間中における剰余金の変動は、2006年5月1日施行の会社法により新設された「株主資本等変動計算書」で説明されるため、損益計算書末尾の「未処分利益」の計算区分は廃止されました。

中間株主資本等変動計算書 第39期中間(2006年4月1日から2006年9月30日まで) (単位：百万円)

科目	株主資本					評価・換算差額 等合計	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
前期末残高	16,755	16,675	162,592	△2,145	193,877	△145	193,731
当期中間の変動額							
利益処分による剰余金の配当			△1,717		△1,717		△1,717
利益処分による役員賞与			△135		△135		△135
剰余金の配当			△1,717		△1,717		△1,717
中間純利益			1,036		1,036		1,036
株主資本以外の項目の当期中間の変動額(純額)						415	415
当期中間の変動額合計	—	—	△2,533	—	△2,533	415	△2,118
中間期末残高	16,755	16,675	160,059	△2,145	191,344	269	191,613

会社概要

商号 株式会社 平和
(英訳名: Heiwa Corporation)

本社 〒376-8588
群馬県桐生市広沢町二丁目3014番地の8

URL <http://www.heiwanet.co.jp/>

創業 昭和24年

設立 昭和35年

資本金 167億5,500万円

従業員数 961名(連結)

役員
代表取締役社長 石橋 保彦
代表取締役専務 堀江 一義
専務取締役 町田 徹
取締役 平野 征宏
取締役 杉戸 春雄
取締役 坂本 雅夫
取締役 中村 誠一
取締役 鎌田 義雄
取締役相談役 中島 潤
取締役(非常勤) 長谷川 貴久
常勤監査役 井元 敏勝
監査役 岸本 政昭
監査役 頃安 健司
監査役 佐藤 武志

事業内容 パチンコ機の開発・製造・販売
パチスロ機の開発・製造・販売

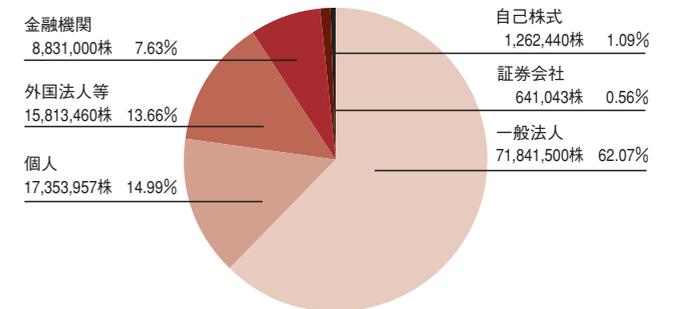
事業所 本社、工場(伊勢崎)、六本木オフィス、
北海道、東北、北関東、東京、名古屋、
大阪、広島、九州 他23営業所

取引銀行 三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行、群馬銀行

株式の状況

発行可能株式総数 228,903,400株
発行済株式の総数 115,743,400株
株主数 14,025名

株式の所有者別状況



株価チャート

